

## 有機フッ素化合物(PFAS)の検出問題について

11月定例岡山県議会では、我が会派の代表質問に大塚愛議員が登壇しました(会派の持ち時間の関係で私の登壇機会はなし)。代表質問のうち、吉備中央町の水道水から高濃度の有機フッ素化合物(PFAS,ピーファス)(※1)が検出された問題についての質問は、私が原稿を起草し、課題や今後の対応等を知事に質しました。以下、その概要をご報告致します。

**質問の背景** 吉備中央町の円城浄水場や周辺のダムなどからPFASが検出された。同浄水場では少なくとも2020年度以降、国の暫定目標値(1リットル当たり50ナノグラム=ナノは10億分の1)を大幅に超える1400~800ナノグラムを検出していたことが町の検査で判明した。これを受け県が、浄水場が取水している河平ダムの上流域の水質調査を進めたところ、沢の最上流部から最大で目標値

の1240倍にあたる濃度のPFASが検出された。高濃度のPFASが検出された地点は山間部の資材置き場周辺に集中しており、現場には大型梱包袋「フレコンバッグ」約300個が置かれ、使用済みの活性炭が入っていた。活性炭の一部から高濃度のPFASが検出されたため、県は一部が発生源となった可能性もあるとみて慎重に調査を進めている。

(※1)PFAS(ピーファス)：PFASとは4730種を超える有機フッ素化合物の総称。代表的な物質であるPFOS(ピーフォス)とPFOA(ピーフォア)は、消火剤やフライパンのコーティング剤などに使用されている。人への毒性が指摘されており、国際条約などで規制の対象となっている。ただし、毒性について、発がん性や甲状腺異常等の可能性が報告されているものの、科学的根拠は実証されていない。国内では、2020年に「水道管理目標設定項目」が設けられ、水道水におけるPFOS・PFOA濃度の暫定目標値が設定された。

### (1) 発生源の特定について

**質問** 資材置場に置かれていた使用済み活性炭が発生源ではないかと取り沙汰されている。資材置場に保管していた企業への詳細な聞き取りも含め、調査状況と発生源の特定に関して、現在、わかっていることは？ また、問題のフレコンバッグは野ざらして放置されていたとのことだが、廃棄物処理法抵触の可能性も含め、管理上の問題はなかったのか、併せて伺う。

**答弁** これまで関係者への聞き取りや土壌調査などを順次行っているが、発生源の特定には至っていない。管理上の問題については、活性炭の保管状況や再生の可否など、法的に問題がないか確認中だ。引き続き、専門家の意見も伺いながら、鋭意、調査を進める。(知事)



(写真はイメージ)

### (2) 吉備中央町の対応について

**質問** 吉備中央町でPFASが暫定目標値を上回っていたが、県への連絡を怠ったり、誤った内容を伝えていた。また塩素酸の基準値超過についても連絡を怠っていたことも判明している。経緯を踏まえ、水道水の安全管理に関する町と県との報告・連絡・相談の仕組みやチェック体制等にどのような課題があったと考えているか。また、今後、県内で同様の事態が起こらないような取組が必要か、併せて所見を伺う。



大塚愛 議員

**答弁** 水質管理は水道事業者の責務であり、異常時には県へ速やかに連絡することとしている。本事案では、町に緊急性・重大性の認識がなく、県への連絡を含め適切な対策を講じなかったことが原因であり、課題があると考えている。本事案を受け、県内全ての水道事業者を対象に連絡会議を開催し、水質異常時の対応、連絡体制の整備・点検の実施等について徹底した。今後、立ち入り検査等を実施し、各事業者の水質管理や危機管理の体制を確認するとともに、講習会等において管理能力の向上を図るなど、再発防止に取り組む。(知事)



### (3) 健康不安の解消について

**質問** 吉備中央町の住民は、血液検査を含む健康診断の公費負担などを求める署名活動を行っている。町は、住民向けの相談窓口を設け、健康相談に関することなどを検討する専門部会を設置したが、県としても、町民の健康不安の解消に向け、専門家等と連携し、町への支援、指導を強化すべきと考えるが、県の対応は？

**答弁** 県では、町に対し情報提供や専門家の意見を踏まえた助言を行うとともに、町が設置した健康相談に関する部会および外部有識者委員会への参加、健康相談対応等のための職員の派遣など、積極的な支援を行っているところだ。引き続き、町と緊密に連携を図りながら、しっかりと支援に取り組んでいきたい。(知事)

## 11月補正予算・経済対策分の概要

11月議会には、現下の物価高騰を踏まえた国の経済対策に呼応する形で補正予算が追加上程されました。「物価高から生活を守る」「持続的賃上げ、所得向上」は、私も昨年来、一貫して主張し続けた政策であり、具体的に提案してきた「賃

上げ原資の確保に資する企業が使用する電気代への補助」や「中小企業の生産性向上支援」の継続が盛り込まれました。この補正予算案は閉会日に満場一致で可決されました。迅速な事業実施を期待します。

### I 予算編成のねらい

「デフレ完全脱却のための総合経済対策」(令和5年11月2日閣議決定)に呼応し、以下の五本の柱に係る施策について、補正予算案をとりまとめた。

- ①物価高から生活を守る
- ②持続的賃上げ、所得向上と地方の成長を実現する
- ③成長力の強化・高度化に資する投資を促進する
- ④人口減少を乗り越え、変化を力にする社会変革を起動・推進する
- ⑤国土強靱化、防災・減災など安全・安心を確保する

引き続き、国や市町村等と連携し、物価高騰から県民生活、事業活動を守るとともに、地域経済の活性化や県民の安全・安心の確保に全力で取り組む。

### II 補正予算額

301億9,864万円

＜財源＞	
負担金	5億9,565万円
国庫支出金	160億7,730万円
繰入金	2億369万円
県債	133億2,200万円

### III 項目ごとの事業概要

#### (1) 物価高から生活を守る

44億792万円

【主な事業】 ●LPガスを使用する家庭等の負担軽減：9億7,000万円、●特別高圧電力を利用する中小企業等の負担軽減：8億497万円、●物価高騰の影響を受ける医療機関、介護施設等に対する支援：8億9,753万円、●飼料価格高騰の影響を受ける畜産農家の飼料購入の負担軽減：10億9,273万円、●貸切バスを利用した県内宿泊旅行の助成：5,500万円 など

#### (2) 持続的賃上げ、所得向上と地方の成長を実現する

15億8,481万円

【主な事業】 ●医療機関で働く看護補助者、介護・障害福祉の現場で働く職員の賃金引上げへの支援：8億9,846万円、●高性能林業機械等の整備への支援：1億703万円、●空港業務の人材確保への支援：139万円 など

#### (3) 成長力の強化・高度化に資する投資を実現する

6億1,105万円

【主な事業】 ●中小企業等が生産性向上に向けて取り組むエネルギー効率化や新規事業展開等への支援：5億9,600万円 など

#### (4) 人口減少を乗り越え、変化を力にする社会変革を起動・推進する

2億4,091万円

【主な事業】 ●県立高校等におけるデジタル等成長分野を支える人材育成の強化：2億円、●県立学校の安定したネットワーク環境の確保：3,564万円 など

#### (5) 国土強靱化、防災・減災など安全・安心を確保する

233億5,395万円

【主な事業】 ●「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」による流域治水の推進等：232億8,389万円、●私立幼稚園や児童養護施設等における性被害防止対策のための取組への支援：1,700万円 など

## 県vs岡山市 建設事業費負担金問題について

県が行う都市計画事業の建設事業費負担金(※2)について、昨年、岡山市から見直しを求められましたが、県は条例通りの対応を主張し話は平行線。2023年度中に結論を得られるよう両者で協議を行ってきたものの、未だ結論は出ていません。

岡山市議会は、この問題を調査する特別委員会を設置し、11月に中間報告をとりまとめ、報告に基づき県議会へ要望活動を行っています。両自治体において、来年度当初予算の編成作業が進む中、この問題の取り扱いが注目されています。

(※2)建設事業費負担金：県が、道路、河川、公共施設整備等の建設事業等を行う際、当該事業により特定の市町村に利益がもたらされる場合、その市町村が応分の費用を負担する制度。岡山県では条例で市町村ごとに負担率を定めており、岡山市の負担率は地方負担分の50%。

論点

### 都市計画事業の建設事業費負担金問題に関する県・市の主張

#### 岡山市議会「自治体間調整問題調査特別委員会」の中間報告での指摘事項

- 事業内容にかかわらず条例で一律に負担を求めるのではなく、事業の受益の程度について市と県で協議を行ったうえで負担割合を定めるべき。また、市の負担率50%は、他の都道府県と比べても高い水準であり、他県と同程度の適正な水準にすべき。
- 維持管理的な要素の強い長寿命化対策事業など改築に係る負担は廃止すべき。
- 負担金を求めるにあたり、その根拠や妥当性について、透明性の高い情報提供を行うとともに、市との事前協議の仕組みを設けるべき。

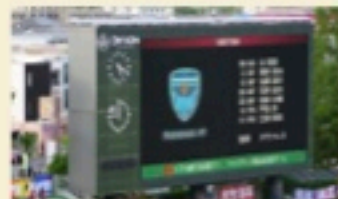
#### この問題に関する県の見解(議会答弁より抜粋)

- 条例は、地方財政法等の関係法令に基づき、事業実施に係る様々な要望などを踏まえ、その進捗を回る観点から、市長村と協議したうえで、県議会の議決も経て定めており、対象事業や負担率等についても妥当だと考えている。(2023年11月議会、自民党・太田正孝議員の一般質問に対する知事答弁)
- 都市計画事業の全国負担率は、本県と同等もしくは同等以上の県もあり、本県の水準が特に高いとは考えていない。また、都市計画事業のうち、都市公園事業については、条例によらず、個別の協定や議決により負担を定めている例もあり、施設ごとに整備の背景や経緯が異なることから、負担を一律に比較することはできない。(2022年9月議会、私の一般質問に対する土木部長答弁)
- 建設事業費市町村負担金に関する市町村との協議では、複数年の整備計画や大まかな負担額等の見通しを提示し、市長村の理解の上で負担を求めていく手法は、これまでも一部の都市計画事業などで取り組んでいる。対応が可能な事業についてさらに活用し、市町村へのより丁寧な説明に努める。(2023年11月議会、自民党・太田正孝議員の一般質問に対する知事答弁)

#### 【Viewpoint】

昨年9月に私がこの問題を一般質問で取り上げた際、「公共施設整備にあたって、県、市どちらがどれだけお金を出すか」という話は、大半の県民・市民はウンザリしていて、両者でよく話し合っ、良い形にしてくれという思いではないかと申し上げました。お金の分担で揉めて、本来、必要な公共工事や施設整備が進まない事態を誰も望んでいません。「県民・市民のため」という視点を持ち、双方歩み寄りながら、よりよい解決策を見つける努力をすべきです。100か0かの交渉ではないので、落としどころは見出せるはず。県と岡山市は、市が整備・建設を目指す新アリーナを巡っても、溝が深まっています。市は県へ費用負担など協力を要請、12月中の回答を求めてきましたが、伊原木知事は11月定例県議会で、県全体への効果が十分に検討されてい

ないと指摘し、「突然、費用負担を求められ、困惑している」「期限内の回答は難しい」と述べました。県と岡山市の関係がギクシャクしている感否めません。関係悪化は地域への印象が悪くなるだけでなく、災害対応が遅れるといった実害も生じかねません。県民、市民にとって何が幸せかを考え、トップを先頭に、関係を構築していただきたいと思えます。両議会においても、対立を煽るような議論にはしないで、冷静に対応すべきです。私も、岡山市選出の県議会議員として、問題解決に向け汗をかくつもりです。



↑今年度は、県が実施したシティライトスタジアムの電光掲示板の改修事業で、岡山市に負担金を求めました。

岡山県議会議員 高橋とおる

## 県政レポート Vol.44



発行：高橋とおる事務所 発行日：2023年9月30日  
〒703-8271 岡山市中区円山118 サンライズビル201  
TEL(086)238-7775, FAX(086)238-7785



プロフィール：1967年生まれ(56歳)。岡山市立可知小学校、同旭東中学校、岡山県立西大寺高校、中央大学を経て、1989年瀬天満屋入社。2005年全天満屋労働組合中央執行委員長。2010年連合岡山会長。2015年岡山県議選初当選。以降3期連続当選。国民民主党岡山県連幹事長。趣味はマラソン(サブ3を複数回達成も直近のレースは3時間51分台と低迷中)。



## 「おかやまマラソン2023」が開催されました！

2023年11月12日(日)、岡山市北区の県総合グラウンドを発着点とする「おかやまマラソン2023」が開催されました。沿道から声援を贈る観客、おもてなしのボランティア、運営に携わってきた実行委員会のスタッフ、そして1万6千人余りのランナーの思いが一つになりました。

規模、種目、応援風景すべてがコロナ禍前と同じ姿を取り戻すのは4年ぶり。沿道ではハイタッチや記念撮影で喜びを分かち合うシーンがあちこちで生まれ、晩秋の岡山路を彩るビッグイベントの「完全復活」を印象付けました。以下、概要をご報告します。

#### 出走者・完走者数

区分	出走者数	完走者数	完走率	【参考】申込者数
マラソン(42.195km)	14,679人	13,627人	92.8%	21,008人
ファンラン(5.6km)	1,452人	—	—	2,532人
合計	16,231人	—	—	23,540人

#### 沿道応援者数・EXPO来場者数

	11/11(土)	11/12(日)	合計
沿道応援者数	—	123千人(157%)	123千人(157%)
EXPO来場者数	52千人(217%)	89千人(494%)	141千人(336%)
計	52千人(217%)	212千人(221%)	264千人(220%)

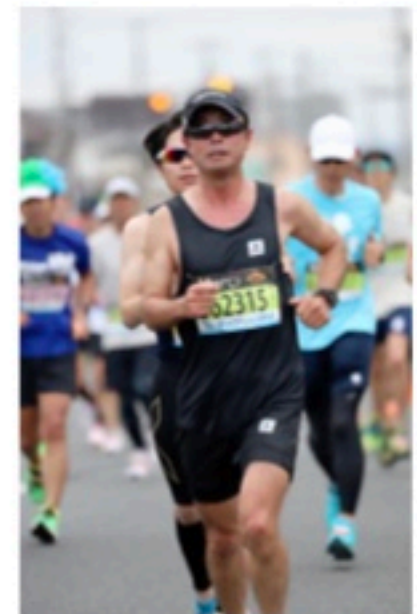
#### 私もフルマラソン完走！



ゴール直後。なんとか笑顔。

#### 記録は3時間36分10秒。

私もフルマラソンに出場し、記録は3時間36分10秒(スタート時のロスタイムを除いたネットタイムは3時間35分17秒)で、目標としていた3時間30分切りは達成できませんでした。35kmまでは想定通りのタイムで走れましたが、その後失速。悔しいけれど、これが今の実力。最終盤の泣きたくなくなるようなキツさも含め、フルマラソンを堪能できました。運営スタッフ、ボランティアの皆様、沿道で応援していただいた皆様、大会に携わった全ての皆様に心より感謝します。おかやまマラソン、サイコー！



20km手前。まだまだ元気。



高橋雄大岡山市議も完走！